【　専門分野　地域・在宅看護論　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
人の暮らしと看護	1	15 時間（8 回）	1 年次・前期	大久　明子
実践的教育内容	看護師として５年以上の業務に従事し（専門領域：訪問看護・地域包括に３年以上の業務従事も含む）専任教員として必要な研修を修了した者が、地域で生活する意味について具体的に教授する			

学習目標	1. 地域で暮らす人々の環境が理解できる 2. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解できる 3. 人の暮らしに関心を寄せ、看護として何ができるかを考えられる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身に着けた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. 暮らすということ 1）暮らしとは ・自分の暮らしを見つめる ・他者の暮らしを知る 2）生活と暮らし 3）生活や暮らしにとって重要な要素	講義 GW	4 回	3. 地域とは 1）地域との関わり 2）地域のつながり 3）住みよい地域とは 4）自分の暮らす地域について考える	講義 GW
2 回	4）健康と暮らし 5）地域で暮らす人々 6）事例を通して、高齢者の暮らしを支援する看護の役割を考える	講義 GW	5～7 回	4. 地域を探索 1）検索・データ収集 2）インタビュー 3）地域活動参加 4）データ整理・まとめ 5）暮らしが健康に与える影響を考える 6）健康障害をもつ人が地域で暮らし続けるための課題を考える 7）発表準備	探索学習 GW
3 回	2. 支えあって生きるとは 1）人との関わり 2）支え合い	講義 DVD GW	8 回	5. 発表・まとめ 「看護」として何ができるかを考える	発表 レポート

評価方法	レポート評価　100 点満点	教科書	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

【　専門分野　地域・在宅看護論　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
暮らしを支える看護Ⅰ	1	15 時間（8 回）	1 年次・後期	前田　知美

実践的教育内容	訪問看護ステーションで管理者として２０年以上勤務経験のある看護師が、看護学生の実習指導経験も生かして訪問看護のステーションの具体的仕組みから、在宅看護の概念・制度や社会資源などを含めた内容を教授する
学習目標	1. 在宅看護が必要とされている背景と在宅看護の概念について理解できる 2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解できる 3. 在宅看護に必要な法・制度・社会資源について理解できる 4. 訪問看護制度が創設された経緯を理解し、訪問看護ステーションの仕組みが理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身に着けた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回	1. なぜ今、在宅看護が必要なのか？ 1）地域・在宅看護の捉え方 2）地域の役割と取り組み 3）人口構成と超高齢社会がもたらす課題 4）ニーズの多様化	講義	4 回 5 回	4. 地域・在宅看護に関わる法令 1）介護保険制度の仕組み 2）地域包括支援センターの役割 3）社会資源の活用 4）在宅看護の制度	講義 GW
2 回	2. 在宅看護の対象者 1）暮らしを支える看護とは 2）在宅看護の対象者 3）療養者の持つニーズと意思決定 4）他職種・多機関との連携 5）継続看護	講義	6 回	5. 地域連携とその先の継続看護 1）継続看護 2）看護師に求められる態度・知識・姿勢 3）健康に対する人々のニーズ	講義
3 回	3. 地域・在宅看護の対象者 1）看護の対象のこれまでとこれから 2）対象は家族 3）システム理論 4）家族の介護力	講義	8 回	6. 対象者としての家族、多様性を理解する 1）発表 2）試験に向けての対策 7. 終講試験	GW 発表 試験

評価方法	筆記試験　100 点満点(45 分) （レポート含む）	教科書	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

【　専門分野　地域・在宅看護論　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
暮らし支える看護Ⅱ	1	15 時間（8 回） ①10 時間（5 回） ② 6 時間（3 回）	1 年次・後期	①大久　明子 ②冨田　昌秀
実践的教育内容	地域・在宅看護論領域担当教員により、在宅看護における対象の権利や社会資源・地域で生活するうえでの安全管理について具体的に教授する。訪問看護ステーションの管理者として、１０年以上経験のある看護師により、具体的な事例を用いて多職種連携の実際を教授する			

学習目標	1. 在宅看護師に必要な職業倫理、対象の権利ついて理解できる 2. ケアマネジメントの目的と機能と実際が理解できる 3. 療養生活における安全管理が理解できる 4. 在宅看護の看護過程の特徴が理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 □2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 ■3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身に着けた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 (大久)	1. 在宅看護の倫理 1） 対象の権利保障 ① 自己決定 ② アドボカシ― 2） 虐待・ネグレクト	講義 GW	5 回 (冨田)	4. 地域・在宅看護実践の場と連携 1） 日本の現状 2） 地域活動（役割と支援） 3) 見える事例検討会について	講義
2 回 (大久)	2. ケアマネジメントと社会資源の活用 1） ケアマネジメントの概念 2） ケアマネジメントの要素・機能・過程 3） 社会資源の活用	講義	6 回 7 回 (冨田)	5. 校外学習 1）「見える事例検討会」の見学 2) 地域における連携の実際	校外見学
3 回 4 回 (大久)	3. 在宅看護の安全管理 1） 生活上の安全確保 ① 医療事故防止 ② 感染防止 2） 災害時の在宅看護の役割	講義 DVD	8 回 (大久)	まとめ 終講試験	講義 試験

評価方法	筆記試験　50 点満点 レポート試験　50 点満点	教科書	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護の基盤（医学書院）

【　専門分野　地域・在宅看護論　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
在宅療養を支える看護Ⅰ	1	30 時間（15 回）	2 年次・前期	菊谷　八重
実践的教育内容	診療所の訪問看護師として１５年以上の勤務経験のある看護師が、在宅で健康障害の特徴に応じた生活援助の実際と医療技術の実際について具体的に教授する			

学習目標	1.　在宅看護援助に必要な基本技術が理解できる 2.　在宅看護の対象に合わせた援助方法が理解できる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 □4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身に着けた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 □6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1回	1.　地域における暮らしを支える看護実践 1）コミュニケーション技術 ・療養者、他職種とのコミュニケーション ・価値観や文化を尊重したコミュニケーション ・パートナーシップに基づくケアの効果	講義	5回	5）食事・嚥下に関する援助 ・在宅での食生活の特徴 ・低栄養における影響、栄養評価の方法 ・療養者・介護者に対する食の支援 ・在宅でできる嚥下評価、リハビリ ・在宅での経管栄養管理 ・経管栄養で起こるトラブルと対処方法	講義
2回	2）清潔に関する援助 ・清潔援助における看護師の役割 ・清潔援助におけるアセスメント ・社会資源	講義	6回	6）在宅中心静脈栄養（HPN）の管理 ・日常の支援、指導 ・カフティポンプの取り扱い ・HPN 中の療養者に起こるトラブルと対処	講義
3回	3）排泄に関する援助 ・尿道留置カテーテルの管理、トラブルの対応 ・失禁のある利用者のケア ・他職種との連携の実際	講義	7回		
4回	4）ストマケアとセルフケア支援 ・在宅でのストマケアの実際	講義			

8 回	7）褥瘡の予防とケア ・褥瘡の発生要因、アセスメントツールの使い方 ・褥瘡予防ケア、発生時のケア ・治療と福祉用具の活用 ・他職種との連携、制度 ・スキンケアの発生要因とケア	講義	12 回	10）呼吸・循環における医療管理レベルの高い療養者の援助 ・在宅酸素療法のしくみ、種類と適応 ・在宅酸素療法を受ける療養者の支援 ・在宅人工呼吸療法の種類と適応 ・在宅人工呼吸療法を受ける療養者の支援 ・在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法の演習	講義 演習
9 回	8）移乗・移動の援助 ・移乗、移動が在宅生活に及ぼす影響 ・各種制度で活用できる福祉用具	講義			
10 回	・移動・移動・褥瘡に関する福祉用具の活用・演習	演習	13 回 14 回	11）体験者の声を聴いて共に考える	講義 GW
11 回	9）苦痛の緩和・安楽確保の援助 ・疼痛コントロール、薬物以外の代替ケア ・在宅での疼痛管理の方法 ・利用者・家族への指導 ・終末期のケア（事例） ・スピリチュアルペインに対するコミュニケーション技術	講義	15 回	12）まとめ・終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験　100 点満点（45 分）		**教科書**	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護の実践（医学書院）	

【　専門分野　地域・在宅看護論　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
在宅療養を支える看護Ⅱ	1	30 時間（15 回） ①　14 時間(7 回) ②　12 時間（6 回） ③　4 時間（2 回）	2 年次・後期	①　大坪　よし子 ②　中尾　伊都 ③　松田　洋子
実践的教育内容	診療所の訪問看護師として１５年以上の勤務の中で、主に終末期（看取り）の看護の経験が多い看護師により、在宅看護の介入方法や地域で最期を迎える意味について教授する。 訪問看護ステーションの管理・経営の経験から地域医療を支えている在宅看護専門看護師が国家試験対策も考慮し教授する			
学習目標	1.　入院から在宅療養に至るまでに必要な看護の役割が理解できる 2.　在宅療養の時期別、疾患や健康障害の特徴から必要な看護が理解できる			
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身に着けた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。			

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1～7回 (大坪)	1.　在宅看護介入の時期別特徴と必要な看護の理解 1）在宅療養準備期（退院前） 2）在宅療養移行期 3）在宅療養安定期 4）急性憎悪期 5）終末期（看取り期）グリーフケア 6）在宅療養終了期	講義 DVD		5. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開 1）ALS の事例 2）訪問看護の実際	講義
8～12回 (中尾)	2.　医療的ケア児への看護 1）医療的ケア児の事例 2）訪問看護の実際 3. 脳卒中の療養者の事例展開 1）脳梗塞の事例 2）訪問看護の実際 4. パーキンソン病の療養者の事例展開 1）パーキンソン病の事例 2）訪問看護の実際	講義		6. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開 1）COPD の事例 2）訪問看護の実際	講義
				7. がん終末期の療養者の事例展開 1）乳がん末期の事例 2）訪問看護の実際	講義
			13 回 (松田)	8.　認知症高齢者の事例展開 1）アルツハイマー型認知症の事例 2）訪問看護の実際	講義
			14 回 (松田)	9. 統合失調症の療養者の事例展開 1）統合失調症の療養者の事例 2）訪問看護の実際	講義
			15 回 (中尾)	10.　まとめ・終講試験	講義・試験
評価方法	筆記試験　100 点満点 （①50 点　②③ 50 点）		教科書	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護の実践（医学書院）	

【　専門分野　地域・在宅看護論　】

科目	単位	時間数・講義回数	学年・時期	講師名
在宅療養を支える看護Ⅲ	1	30 時間（15 回）	2 年次・後期	大久　明子
実践的教育内容	地域・在宅看護論領域担当の教員が、領域のまとめしてペーパーペイシェントによる看護過程展開技術を教授する。 また、事例を通じて在宅看護に必要な態度行動について教授する			

学習目標	1. 在宅看護の看護過程の特徴が理解できる 2. 在宅看護が必要な対象を理解し、必要な看護過程が展開できる 3. 在宅看護に必要な態度・行動および専門職としての倫理観を習得できる 4. 在宅療養者と介護者に必要とされる福祉用具を知り、今後の在宅看護に活かすことができる
DPとの関連	■1）多様な文化・価値観を持った人々を、生活を営む存在として幅広く捉えるための、多くの知識が身についている。 ■2）看護専門職としての役割を果たすための、コミュニケーション力が身についている。 □3）自己を客観的に見つめることができ、看護師としての倫理的判断に基づいた看護が実践できる。 ■4）健康障害があるなしにかかわらず、その人の持てる力に応じた看護が実践できる。 ■5）身に着けた知識を活用し得られた情報を科学的・論理的に分析しあらゆる人の健康に関する課題を明確にし、看護が実践できる。 ■6）健康・医療・福祉の総合的な視野を持ち、チーム医療の一員として対象や多職種との連携・協働において、すべての人々の健康の保持・増進・予防を考慮した看護が実践できる。 □7）専門職業人としての自覚を持ち、看護の発展のために生涯学習し続けることができる。

回数	学習内容	学習方法	回数	学習内容	学習方法
1 回 2 回	1. 在宅看護の看護過程 1）在宅看護過程の特徴 ①情報収集 ②アセスメント ③計画立案 ④実施 ⑤評価 2）GW での学習共有 3）学習発表	講義 GW	5～13 回	3. 事例を用いた看護過程の展開 1）事例紹介 事例 1：ALS 事例 2：糖尿病 事例 3：COPD 事例 4：脳卒中 2）個人ワーク 3）グループワーク、発表準備 4）演習・発表	講義 GW 演習 発表
3 回 4 回	2. 訪問に対する心構え 1）挨拶・マナー 2）態度・行動 3）在宅看護の現状・実際 ・DVD 鑑賞「ぼけますから、よろしくお願いします」	講義 DVD レポート	14・15 回	4. 校外学習 「ATC エイジレスセンター」	校外見学 レポート

評価方法	授業態度　出席状況　発表 レポートの総合評価　100 点満点	教科書	系統看護学講座　専門分野 地域・在宅看護の実践（医学書院）